

『分類語彙表』における多義語について

山崎 誠 (国立国語研究所 (客員教授))[†]

Polysemes in the "Word List by Semantic Principles"

Makoto Yamazaki (National Institute for Japanese Language and Linguistics)

要旨

2004年に刊行された『分類語彙表増補改訂版』(以下、分類語彙表)はその「まえがき」によると、初版とくらべて多義語の処理を改良して、「同じ単語を意味に応じて何箇所にも出すようにした」と記述されている(P.6)。しかし、現代の小型国語辞書に掲載されている多義語と比べると、『分類語彙表』の多義語は掲出されている分類項目が少ないものがある。例えば、「切る」は『三省堂国語辞典第八版』では動詞のブランチが26個、造語成分としてのブランチが3個あるが、これら29個のブランチを『分類語彙表』と対照させると、単独の見出しがあるものが3個、「スイッチを切る」のように連語として見出しがあるものが5個で、計8ブランチしか対応していなかった。残りのブランチは、単独の見出しで掲出できそうなもの15個、連語として掲出できそうなもの6個であった。本発表の目的は、使用頻度の高い多義語を取り上げ、『分類語彙表』に収録されていない意味を拾い上げ、増補の候補とすることである。

1. はじめに

分類語彙表は2004年の改訂の際に、多義語を構成するそれぞれの意味を増補したことが記述されている。国立国語研究所(2004: 6)に以下のように書かれている。

3) 基本語の多くは多義的である。その意味のそれぞれには、当然別の分類番号が与えられなければならない。元版においても「あがる」は、移動の意味では<2.1540 上がり下がり>に、終わる意味では<2.1502 開始・終了>に、食べる意味では<2.333 生活・衣食住>に分類されている。しかし、全体としては元版における多義語の処理は、不十分だった。今回の増補改訂版ではこの点を改良して、同じ単語を意味に応じて何箇所にも出すようにした。

しかし、多義語の持つ個々の意味に対応する見出しが見当たらないものがある。トランプを混ぜる意味の「切る」は、分類語彙表には見いだせない¹。同様に、しばしば「斬る」と表記される、批判する意味の「切る」も該当する見出しが存在しない。これは上記の記述とは一致しないように思われる。そこで、分類語彙表において、多義語の持つ個々の意味がどのように収録されているかを調べてみようと思う。具体的には、小型国語辞典に掲載されている多義語の個々の意味が分類語彙表に掲載されているかどうかを確認する。とくに和語の動詞に焦点を当てる。

[†] yamazaki@ninjal.ac.jp

¹ 第17回 NINJAL セミナー「語彙資源の構築と活用」で筆者が発表した際に参加者からこの指摘があった。

2. 分類語彙表における多義の認定方法

分類語彙表において多義語をどのように認定するかについて述べる。多義語は、「意味的に関連の認められる異なった二つ以上の意味をもつ語。」(『日本大百科全書(ニッポニカ)』の多義語の項目、執筆国広哲弥)と定義される。分類語彙表では、便宜的に各分類項目が多義語の条件である「意味的に関連の認められる異なった二つ以上の意味」に対応しているとみなすことができるだろう。

次に、多義を持つ「語」をどのように特定するかであるが、こちらも便宜的に分類語彙表において、表記と読みの組み合わせで決めるのが妥当であろう。すなわち、任意の2語について、表記と読みの両方が一致していれば同じ語と見なし、表記あるは読みのいずれかあるいはその両方が異なれば別の語と見なすわけである。もちろん、この方法で語を特定することはやや正確さを欠く²。

便宜的ではあるが、上記の方法で「分類語彙表増補改訂版データベース」³における各語の意味数を調べたものが表1である⁴。

表1 分類語彙表における語の意味数と語数(分類項目による集計)

意味数	語数	割合
1	67598	83.20
2	11228	13.82
3	1839	2.26
4	439	0.54
5	82	0.10
6	36	0.04
7	18	0.02
8	5	0.01
10	1	0.00
11	1	0.00
合計	81247	100.00

表1は、分類項目を意味の単位としたものであるが、例えば、1.3374(スポーツ)という分類項目に、「シュート」という見出しが2回現れる。これは、サッカーのシュートと野球の球種であるシュートである。これらは分類項目の直下の階層である段落でみると、それぞれ別の段落に現れる。そこで、これらを別の意味領域に属すると見なすことができるように、分類項目と段落番号を使って各語の意味数を集計したものが表2である。

以降、表2に基づいて話を進める。表2には、意味1の語が全体の83.16%であることが分かる。意味1の語は単義語と見なすことができるので、残りの16.74%が多義語ということになる。ちなみに、意味数が12の語は「立てる」、意味数11は「手」であった。

² 例えば、花の「リラ」(lilas)と通貨単位の「リラ」(lira)が同じ語になってしまう。また、「立てる」「建てる」のように異なる漢字をあてている場合は別語となる(ただし、このケースを同音異義語とするか、多義語をするかは議論の余地がある)。

³ <https://github.com/masayu-a/WLSP/blob/master/bunruiddb.txt>

⁴ 上記データベースから、以下の2種のレコードを除外している。(1)区切りを表すレコード(見出しが「*」)。(2)レコード種別が「B」となっているもの。これは、見出しが「瑣事・些事」のように複数の語を便宜的に合併して示したもの、あるいは、「くんだり(件)」のように、括弧で漢字を添えた項目等である。これらは、別に表記と読みの組み合わせのレコードが用意されているので、「B」は集計外とした。

表2 分類語彙表における語の意味数と語数（分類項目＋段落番号による集計）

意味数	語数	割合
1	67568	83.16
2	11230	13.82
3	1853	2.28
4	448	0.55
5	85	0.10
6	38	0.05
7	17	0.02
8	4	0.00
9	2	0.00
11	1	0.00
12	1	0.00
合計	81247	100.00

以降、表2に基づいて話を進める。表2には、意味1の語が全体の83.16%であることが分かる。意味1の語は単義語と見なすことができるので、残りの16.74%が多義語ということになる。ちなみに、意味数が12の語は「立てる」であった。

3. 多義語「切る」の掲載状況

この節では、多義語の例として『三省堂国語辞典』（第八版）の「切る」を取り上げ、その各意味が分類語彙表にどのように掲載されているか、あるいは、ないかを調査した。結果を表3に示す。「切る」には、動詞と造語成分（接尾辞）があるが、両方を対象とした。表の「分類語彙表での有無」は、以下のとおり。

- ：対応する意味が掲載されているもの
- △：対応する意味が連語として掲載されているもの（「縁を切る」「スイッチを切る」等）
- ×：対応する意味が掲載されていないもの

「分類番号と項目名」は、対応する分類項目がある場合は、その情報を、ない場合は、もし掲載されるとしたらその分類番号になるはずの情報を記した。

表3 『三省堂国語辞典』（第八版）の「切る」の意味と分類語彙表における位置

「切る」の意味（語釈と例文）	分類語彙表での有無	分類番号と項目名
①刃物(はもの)などで、一つのものはなればなれにする。断(た)つ。「枝を一・糸を一」	○	2.1571 切断
②刃物などで きずつける。「指を一」	○	2.1571 切断
③切ってあける。「封(ふう)を一」	×	2.1553 開閉・封
④金属に刻みつける。「銘(めい)を一」	×	2.1570 成形・変形
⑤切って内がわに作る。「ポケットを一・炉(ろ)を一」	×	2.1570 成形・変形
⑥〔切りはなして〕作る。「伝票を一・手形を一」	×	2.3770 授受
⑦配布する印刷物を作る。「レジュメを一」	×	2.3832 出版・放送
⑧〔空間に〕まっすぐに線を引く。「空(くう)を一・十字を一」	×	2.1510 動き
⑨〔よけいな水分などを〕取り去る。「水を一・揚(あ)げものの油を一」	×	2.1251 除去

⑩ [関係を] きっぱりなくす。「縁(えん)を一」	△	2.3500 交わり [縁を切る]
⑪ 切り捨てる。「下請(う)けを一・苦手な授業を一 [=もう出席しない]」	×	2.1251 除去
⑫ とちゅうでやめる。「話を一」	×	2.1503 終了・中止・停止
⑬ [スイッチを動かして] 電流をとめる。	△	2.3850 技術・設備・修理
⑭ [カメラのシャッターボタンを] おす。	×	2.3850 技術・設備・修理
⑮ 顔を動かして、その方角に向く。また、左右に回す。「正面を一・ハンドルを一」	×	2.1730 方向・方角
⑯ ある かまえや態度をとる。「みえを一・鯉口(こいぐち)を一 [⇒「鯉口」の用例]・しらを一」	△	2.3030 表情・態度
⑰ [斬る] 刀で、きる。殺す。「寄らば一ぞ・泣いて馬謖(ばしょく)を一 [⇒「泣く」の【句】]」	×	2.3440 犯罪・罪
⑱ [斬る] えんりよなく、批判する。「現代の世相を一」	×	2.3135 批評・弁解
⑲ そのときまでで、それ以後は受けつけないことにする。「百番で一・期限を一」	×	2.1721 境・間
⑳ ある数より下になる。「残り二〇秒を一」	×	2.1584 限定・優劣
㉑ (中を分けて) 勢いよく〈進む／進み出る〉。「先頭を一・スタートを一」	△	2.1525 連れ・導き・追い・逃げなど
㉒ 思い切って手放す。「飛車を一・札ビラを一」	△	2.3700 取得
㉓ ふだをさし出す。「カードを一 [=切りふだを出す]・名刺(めいし)を一」	×(2.3770) △(2.3710)	2.3770 授受 2.3710 経済・収支
㉔ そろえたままの ふだをまぜあわせる。「カルタを一 [=よくまぜ(て、くば)る]・カードを一」	×	2.1550 合体・出会い・集合など
㉕ 水面に当たって はねかえる。「投げた石が水を切つてとぶ」	×	2.1525 連れ・導き・追い・逃げなど
㉖ <<すもう>>まわしにかかった相手の手をはなさせる。	×	2.3374 スポーツ

以下、造語成分として意味

① 終わりまで…する。そこで終わりにする。「泳ぎ一・逃(に)げ一・使い一・言い一」	○	2.1250 消滅
② これ以上ないほど…する。「澄(す)み一・困り一・にがり一・弱り一・勝ち一 [=完勝する]」	×	2.1721 境・間
③ ずっと…する。「かかり一・詰(つ)め一」	×	2.1504 連続・反復

「切る」は動詞の意味が 26 個、造語成分(接尾辞)としての意味が 3 個、合計 29 個の意味があるが、これらのうち、単独の見出しがあるものは 3 個、連語として見出しがあるものが 5 個であった。「切る」の多義語充足率⁵は 27.6%で 3 割に満たない低い状況である。残りの 21 個は分類語彙表には掲載されていなかった。その 21 個のうち、連語として見出しが妥当であるものが 6 個認められた。

⁵ ○と△の合計を全体数で割った値。

4. 使用した辞書との関係

前節では多義語「切る」について分類語彙表と『三省堂国語辞典』（第八版）との対照を試みたが、実際に分類語彙表を増補した際も参照した辞書は『三省堂国語辞典』ではない。分類語彙表における多義語の増補については中野ほか（1989: 450）にも言及がある。以下、該当部分を引用する⁶。

(5) 一語に複数の分類番号をあてる方法

この方法は、次の手順で行う予定である。

①『新明解国語辞典』（MT版）の意味記述文から各意味毎にレコードを作る。

②①から多義語を抜き出す。

③②に、その意味記述によって、新しい分類番号を付ける。

しかし、現段階での増補については、積極的にはこの方法をとってはいない。機械的な方法で付けられた複数の分類番号を、して1つにするという事はしない程度である。

この記述によれば、多義語の増補はある程度まで行われたということが推察される。また、上記引用中の『新明解国語辞典』は中野（1989: 449）に約70,000語とあることから、第二版であると思われる。そこで本節では『新明解国語辞典』（第二版）との比較を試みた。『新明解国語辞典』では、意味の区分が大きくまとめられ、その中に用例として個別の意味が記述されている形式になっているため、各用例と分類語彙表との対応関係を調べた。

表4 『新明解国語辞典』（第二版）の「切る」の意味と分類語彙表における位置

「切る」の意味（語釈と例文）	分類語彙表での有無	分類番号と項目名
一①（他五）㊦鋭い刃物などで、勢いよく二つの部分に離すようにする。「人を一〔=（A）傷つける。（B）殺す〕・たまを一〔=庭球・卓球などで、たまに逆回転を与える打ち方をする〕・口を一〔=（A）罐や封筒などの端を切って、出し入れ口を作る（B）沈黙を破って、物を言い出す〕・行列を一〔=横切る〕・伝票を一〔=発行する〕・切符を一〔=切符にパンチを入れたりして、正式に乗客・入場者と認める〕」	○(2.1571) ×(2.3374) ×(2.3100) ×(2.1570) ×(2.1525) ×(2.3770)	2.1571 切断 2.3374 スポーツ 2.1570 成形・変形 2.3100 言語活動 2.1525 連れ・導き・追い・逃げなど 2.3770 授受 2.1571 切断
㊦手やからだからだなどで空気を「切る㊦」ような動作をする。「空気を切って〔=空中を突き抜けるようにして〕飛んでくる・十字を一〔=十字の形を手ではっきりと描く〕・肩で風を一〔=勢いよく進む〕・先頭を一〔=先頭に立って進む〕」	○(2.1525) ×(2.1520) ○(2.3030) ○(2.1525)	2.1525 連れ・導き・追い・逃げなど 2.1510 動き 2.3030 表情・態度 2.1525 連れ・導き・追い・逃げなど
㊦局面が転換するような、思い切った事を	○(2.3100)	2.3100 言語活動

⁶ 同一の記述が中野（1989: 4）にも見られる。

何かする。「たんかをー・しらをーみえをー・切り札をー [=出す]・札びらをー [=見せびらかすように、人前に出・す (して使う)]・ハンドルをー [=鋭く動かして、方向を変える]・カーブをー」	△(2.3030) △(2.3100) △(2.3770) ×(2.1730) ×(2.1730)	2.3030 表情・態度 2.3100 言語活動 2.3770 授受 2.1730 方向・方角 2.1730 方向・方角
㊸一続きのものの連絡を絶つ。「言葉をー [=そこで話をやめる]・スイッチをー [=操作して、回路を絶つ]・先着順十名でー [=申込者や入場者を限定する]・日限をー [=一定の範囲に限る]・水をー [=水分が無くなるようにする]・かるたをー [=相互に連絡が無いように、うまく交ぜる]」	×(2.1503) △(2.3850) ×(2.1721) ×(2.1721) ×(2.1251) ×(2.1550)	2.1503 終了・中止・停止 2.3850 技術・設備・修理 2.1721 境・間 2.1721 境・間 2.1251 除去 2.1550 合体・出会い・集合など
㊹そこまで到達しない範囲にとどまる。割る。「百メートル競走に十秒をー・元を切って売る」	×(2.1584) ×(2.1584)	2.1584 限定・優劣 2.1584 限定・優劣
二[接尾語的に]㊺余す所無く何かをする。「読みー(0)・言いー」	○(2.1250) ○(2.1250)	2.1250 消滅 2.1250 消滅
㊻限界に達して、それ以上堪えられない状態になる。とことんまで…する。「弱りー(4)(2)・困りー」	×(2.1721) ×(2.1721)	2.1721 境・間 2.1721 境・間

表 4 から、分語彙表への掲載状況としては、○が 7 個、△が 4 個、×が 17 個となった。多義語充足率は 39.2%と、表 3 よりは大きい値となった。しかし、大きな区分で見ると、動詞の㊸と接尾語の㊻を除いては掲載されていたことになる。増補の際、各意味のレコードがどのような構造になっていたか分からないが表 4 のような大きな区分であった場合、その中にどれを選んで分類番号を付けたのかが分からないので、作業的にはあまりこのまじくはない方法だったのかもしれない。

5. おわりに

本稿では 2004 年に刊行された分類語彙表増補改訂版の多義語の増補の状況を「切る」を例として観察した。その結果、多くの意味が掲載されていないことが分かった。これは作業上どのようなデータを使用したかに関わっているのではないかと推察された。他にも使用頻度が高く多義である語の中には同じように増補から漏れてしまった意味があるかもしれない。今後分類語彙表の改定の際の参考としたい。

謝 辞

本研究は JSPS 科研費 JP19K00655 の助成を受けたものです。

文 献

- 国立国語研究所(編) (2004). 『分類語彙表増補改訂版』大日本図書
 中野洋(1989) 『『分類語彙表』形式による語彙分類表』文部省科学研究費補助金特定研究(1)
 「言語データの収集と処理の研究」(研究代表者：野村雅昭、研究分担者：中野洋)

中野洋、宮島達夫、石井久雄、藤田正春、鶴⁷岡昭夫、森由紀(1988)「日英語彙データの収集・比較と機械辞書の作成」

関連 URL

日本大百科全書（ニッポニカ）, JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com>, (2023年8月15日参照)

⁷ 原文では「鶴」。